

令和 元年 6 月 21 日現在

機関番号：14301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K16580

研究課題名(和文) 東アフリカ沿岸部における穏健派イスラーム組織に関する研究

研究課題名(英文) A Study on Moderate Islamic Groups of the East African Coast

研究代表者

藤井 千晶 (Fujii, Chiaki)

京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・特定研究員

研究者番号：80722058

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の主な成果は、第1に、ザンジバル(タンザニア連合共和国)のイスラーム組織「ウアムシヨ(覚醒)」が、発足時の2000年代初頭には宗教的な目標が掲げていたが、2010年代になると政治的な内容に変化し、多くの住民からの支持を得たこと、第2に、2010年、革命党との連立政権樹立に不満を持つ市民統一戦線の支持者らが、ウアムシヨの構成員として活動し始めたこと、第3に、ウアムシヨの活動が「ザンジバル国」や「ザンジバル人」意識を高めたこと、第4に、2012年のウアムシヨの有力指導者らの逮捕や、2015年の国政選挙時のザンジバル政府による活動制限が、組織としての求心力低下に繋がったことを示した点である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

民衆イスラーム(人々の日常生活の中で行われてきたイスラーム実践)研究は、イスラーム法学者などが担ってきた教義を重んじる「正統イスラーム」に相反するものとして、これまで軽視される傾向にあった。しかし近年では見直され始め、国内では京都大学と上智大学が主催する「NIHUプログラム:イスラーム地域研究 ユニット4: 広域タリーカ」において、民衆イスラーム研究が進められている。本研究の成果は、穏健派イスラーム組織を中心とした東アフリカ沿岸部の民衆運動の解明と、民衆イスラーム研究の促進に貢献できたと考えられる。

研究成果の概要(英文)：This research clarified four points: 1. In the 2000s, when the moderate Islamic group Uamsho (Awakening) was established in Zanzibar (United Republic of Tanzania), for religious purpose. However, in the 2010s, the group began to stress a political assertion. 2. In 2010, before the national election, the CCM (Chama cha Mapinduzi: Party of Revolution) and CUF (Civic United Front) formed a ruling coalition. Some supporters of CUF, who were dissatisfied with the coalition party, moved to Uamsho and began to promulgate their opinions. 3. In calling for Zanzibar's sovereignty, Uamsho gained public attention and succeeded in establishing a national identity for Zanzibar and its people. 4. The activities of Uamsho have remarkably decreased because of the arrests of its leaders in 2012 and the national election in 2015, after which the Zanzibar government strictly limited their public activities.

研究分野：地域研究

キーワード：ザンジバル タンザニア 東アフリカ沿岸部 イスラーム復興 イスラーム組織

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

東アフリカ沿岸部は、インド洋を介した交易を通してイスラームが伝わった地域である。その中でもタンザニアのザンジバル島は、19世紀末のオマーンによる統治以降、インド洋海域世界の経済的・文化的中心地の一つとして繁栄してきた。現在でも東アフリカ沿岸部はムスリムが多数を占める地域であり、特にザンジバルは、住民の99%以上がムスリムである。

東アフリカ沿岸部のイスラーム研究については、考古学 [Freeman-Grenville 1973, 1975] やイスラーム知識人に関する歴史学 [Pouwels 1987, Bang 2003] の蓄積がある一方、民衆のイスラーム (人々の日常生活の中で行われてきたイスラーム実践) に関する研究については、十分にこなされてこなかった。その理由は、東アフリカの民衆のイスラームが、初期の研究者によって土着の要素と混交した「田舎イスラーム」と評され、イスラーム研究として扱われてこなかったためである [日野 1980, Trimmingham 1964]

そこで筆者は、世界各地の民衆へのイスラーム普及に貢献してきたタリーカ (イスラーム神秘主義教団) と、「預言者 (ムハンマド) の医学」の実践に焦点を当て、東アフリカ沿岸部において民衆にイスラームが根付いた背景と、イスラーム復興 (ムスリムの自己意識の強調やそれに基づく社会・文化現象) の流れを受け、イスラーム実践が盛んに行われていることをこれまで明らかにしてきた。

さらに2000年代以降になると、世界各地でのイスラーム組織の活動やアラブの春 (2010年末以降、中東諸国で民主化を求めて起こった民衆運動) もまた、東アフリカ沿岸部の人々の生活や考え方に影響を与えてきた。ザンジバルではイスラーム組織「ウアムシヨ (Uamsho: 覚醒)」の活動が可視化し、ザンジバル独立運動も声高に主張され始めていた。本研究では、これらの民衆運動に着目し、現在の東アフリカの民衆のイスラームを明らかにすることを目的として開始した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、近年活動が顕著である東アフリカ沿岸部の穏健派イスラーム組織とそれを取り巻く民衆運動を明らかにすることである。これまでの先行研究の多くは、ウアムシヨを「テロ組織」として論じてきたが、本研究ではウアムシヨが、草の根レベルの活動を通して民衆の支持を集めている側面に焦点を当てる。

(1) 東アフリカ沿岸部における穏健派イスラーム組織ウアムシヨの活動の解明

近年のザンジバルでは、穏健派イスラーム組織ウアムシヨの活動が盛んである。ウアムシヨの活動の主な目的は、ザンジバルをイスラーム国家として独立させることであり、演説会の開催やデモ活動、インターネットを活用した情報発信によって、多くの民衆の支持を獲得している。このような穏健派イスラーム組織の活動や主張を、指導者や構成員への聞き取り調査の実施と、出版物やインターネット上に発信される情報の分析を通して明らかにする。

(2) 東アフリカ沿岸部の民衆運動とアラブの春の影響の解明

アラブの春がチュニジアの民衆運動に端を発して中東諸国に急速に広がったように、東アフリカ沿岸部における穏健派イスラーム組織の草の根レベルの活動や、それを取り巻く民衆運動の国政への影響もまた、現在では無視できない存在になっている。本研究では、東アフリカ沿岸部で実施する現地調査と関連資料の分析によって、アラブの春以降の東アフリカ沿岸部と中東諸国の政治動向の関連性を明らかにする。

(3) イスラム組織の国政に対する影響力の解明

2014年4月に予定されているタンザニア 連合共和国憲法改正を前に、ウアムシヨはザンジバルのタンザニアからの分離独立の主張を強め、民衆の支持を獲得している。このようなウアムシヨの主張がどの程度、今後の国政に影響を与えるのかについて、ウアムシヨの指導者や構成員、ザンジバルの一般ムスリムに対しての聞き取り調査と、出版物や新聞の内容を分析して明らかにする。

3. 研究の方法

本研究課題は現在進行中の事象であるため、毎年の現地調査の実施が不可欠である。すでにザンジバルでは、島内各地のイスラム指導者との信頼関係を築いているため、今後も継続的に活動内容についての調査を実施することが可能である。

ザンジバルの政情不安により調査継続が困難と判断した場合は、ザンジバルの調査協力者に出出版物やCD・DVD等の電子媒体の送付を依頼してそれらの資料の分析を優先させたり、主にモンバサ(ケニア共和国)で活動するイスラム組織「モンバサ共和評議会」に関する調査に変更したりするなどして対応する。

4. 研究成果

本研究の成果としては第1に、組織が設立された2000年初頭、ウアムシヨの主な目的はムスリム同士の連帯、相互扶助、社会貢献、イスラム教育の普及等、宗教的な目標が掲げられていたが、2010年代になると、政教一致やザンジバルが国家として独立することの必要性などが説かれるなど、政治的な内容に変化していることを明らかにした。

第2に、ウアムシヨの政治活動が活発化したのは2010年頃であることを指摘した。この時期は、与党である革命党(Chama Cha Mapinduzi)と、市民統一戦線(Civic United Front)の連立政権が成立した時期でもある。本研究では、これまで対立関係にあった革命党との連立政権に不満を持つ市民統一戦線の支持者らが、ウアムシヨに活動拠点を移したことを指摘した。

第3に、ウアムシヨの演説会や出版物などを通して、ザンジバルでは「ザンジバル国」や「ザンジバル人」としての人々の意識が高まったことを明らかにした。ウアムシヨは島内の世論を政治面だけでなく、精神面においても団結させることに成功していることを指摘した。

第4に、2010年初頭、ウアムシヨの活動はデモ行進や演説会、書籍類の出版という形で盛んになったが、2012年、有力な指導者たちが逮捕されると、活動の減少は決定的なものとなった。さらに5年ごとの国政選挙が実施されるたび、ザンジバル政府によって活動の制限を余儀なくされた。現在、ウアムシヨの指導者たちによる公の場での演説活動が難しい状況であり、一般の人々がウアムシヨについて言及することも、ほとんどなくなっている。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計3件)

藤井千晶 <書評> 「伊藤未来『千年の古都ジェンネ-多民族が暮らす西アフリカの街』」イスラム世界研究 10、332-334 頁、2017 年。

FUJII Chiaki “The Role of Spirits: The Case of the East African Coast,” TONAGA Yasushi & FUJII Chiaki (eds.), *Islamic Studies and the Study of Sufism in Academia: Rethinking Methodologies* (Kyoto Kenan Rifai Sufi Studies Series 3), 2018, pp. 279-290.

藤井千晶 <書評> 「齋藤剛『<移動社会>のなかのイスラーム-モロッコのベルベル系商業民の生活と信仰をめぐる人類学』」イスラーム世界研究 12、269-271 頁、2019 年。

〔学会発表〕(計 3 件)

FUJII Chiaki “The Growing Islamic Movement off the East African Coast,” Fifth Joint Seminar of KIAS and Graduate School of ASAFAS, Kyoto University and IMS, Busan University of Foreign Studies, “Area Studies and Area Informatics in the Mediterranean World,” 2016.

藤井千晶「ザンジバルにおけるイスラーム組織ウアムシヨの活動」日本アフリカ学会第 53 回学術大会、2016 年。

藤井千晶「精霊の存在意義：東アフリカ沿岸部の事例から」第 55 回日本アフリカ学会学術研究大会、2018 年。

〔図書〕(計 1 件)

藤井千晶『東アフリカにおける民衆のイスラームは何を語るか-タリーカとスンナの医学』ミネルヴァ書房、2018 年。

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号 (8 桁)：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。